

日時 : 2013年11月13日 木曜日 13:25~16:50
場所 : 山田記念室
出席 : B4 三木 大野(記) 中畑 越田(記) 小松 半田 白井 イ 小幡 野川
欠席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 関口

ゼミ内容

B4 作業途中経過確認

作業途中経過確認

■三木

・西淀川に対する問題意識の提示。

- >問題意識は「町工場と住民の分断」。
- >町工場の廃業は結果であり問題意識ではない。
- >お父さんに話をきく。

■大野

・工業団地が街の人々の意識から切り離されてつながっていない。

- >工業団地をポジティブにとらえるには？
- >工業団地のことを調べる。
- >どこにどんな可能性・問題があるのか？

■越田

・木材会館に足りないもの考えた。
・大工に対するモチベーションの低下。

- >木造を使って今までにない空間を考えるのでは？
- >木造のプラスの部分をどのようにのびし建築するのか。
- >木を勉強すること。

■中畑

・団地の嫌なところを改善してゆく。
・住戸の外部と内部操作の分析。

- >高ヶ坂が町田に対してどのような位置づけなのか？
- >郊外をやるなら郊外について調べる。
- >団地のどこがよく、どこが悪いのか考える。

■小松

・祝島のデータを整理。
・村岡さんの生活からの分析

- >地図を重ね分析をする。
- >「島をこうしたい」というビジョンを考える。
- >観光ではない島の解決策を考える。
- >データで示す。

■半田

・SHIBAURA HOUSEの現地調査から感じたこと、外からの内の見え方
・多層建築内の空間の連続性

- >歩いている人に地縁を増やすにはどうしたらいいのか？
- >情報を得なきゃいけない。
- >情報を増やす。

■白井

・車を排除した事例の調査
・中心地は駐車場が多く、敷地の変更

- >斜線数を減らしたなら、その代わりに考える。
- >自分の町に近い提案を考える。
- >通過交通の対策事例を調べる。
- >情報を手に入れる。

■イ

・月街サーベイについて分析

- >月街が歴史的にどういう場所なのかを伝える。
- >現在のソウルの状況かを伝える。

>物理的なデータでソウルを伝える。
>どういう特別な場所なのかを示す。
>街のよさを考えて建築を提案する。

■ 小幡

・三国街道に人を呼び寄せる。

>市がやろうとしていることは歴史的町並みの保全
>問題意識・モチベーションがない。

■ 野川

・ペDESTリアンデッキのある場合とない場合の分析
・現状の絵と提案

>動線計画を考えること。
>駅前の現状の把握。
>ターミナルを商店街に持っていけるのか？

□ 総評

・ 踏み込んだ問題意識を考える。

□ 連絡事項

・ なし

□ 次回ゼミ

・ 2013年11月20日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年11月6日 水曜日 13:25~17:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
 M1 板部 山田
 B4 三木(記) 大野 越田 小松 中畑 半田 イ 小幡 関口 野川(記)
欠席 : B4 白井

ゼミ内容

□ B4 作業の途中経過確認

□作業の途中経過確認

■三木

・西淀川が抱える問題について考え直した

- >深いサーベイが出来ていない。
- >踏み込んで考えること。
- >問題意識が未だに分からない。
- >後継者不足は卒業設計にならない。

■大野

・建築外観に生活感があることは街全体の生活に安心感を与える。
・プログラムとしてインキュベーションセンターを考えている。

- >政治的な話ばかりいらない。
- >しっかりと言葉の意味を理解してから使うこと。

■越田

・横浜のサウスウッドと木材会館を見てきた
・木を意識させる工夫はされていたが自分が思っている木造とは違うと感じた

- >木材会館に足りないものは何か？
- >木材会館の様な公共施設を作ればいいのか？

■中畑

・嫌だと思ふところを見つけ建築的に改善していく。
・愛着を残しつつ現代に合わせ、20%ほど新しくする提案。

- >ノスタルジーになら嫌な所を直し洗練する。
- >かつてあった道を使えるようにするような提案はある。
- >手を動かし作業すること。

■小松

・集落に昔使っていた井戸がある。歴史が点在している。
・方向性として水を使いながら生活していくために減築する

- >いつの時代の祝島が良かったか？
- >その頃の祝島に戻せばいいのか？
- >かつてあった道を使えるようにするような提案はある。
- >建築の話をしろ。

■半田

・接地性のある建築の定義。
・高層で接地性のある建築の事例。

- >問題意識を分かっていない。
- >何を求めて何をやりたいのか分からない。
- >オリジナルの文章をもってくる。

■イ

・ソウルの約60%が1人暮らしか2人暮らしの家庭
・中間から変わらず大開発する方向に進めたい。
・集まる施設を提案しようと思ったが、実際に需要が無い(住民意見より)。

- >全面的な開発は現代的ではない。
- >月街と普通の町は何故違うのか？
- >階段やスロープ道の幅空き家などを情報化やデジタル化して分析をする。

■小幡

・方向性として三国街道に人を集めたい。
・三国街道は越後、信濃、上州の三つの国を通る街道であった。

- >昔どのみちがあったのか調べる。

- > 市役所がどのような提案をやっているか調べる。
- > 街道に人を来させても、サフラン酒が現状は変わらないかもしれない。

■ 関口

- ・ 住民同士を強く結びつけることが目的。
 - ・ 人が集まる場所を分析しその機能を小学校にもってくる提案。
- > 小学校の構造を調べて図面を書いて作る。
> 町史を調べ昔の状況が分かる絵を作りそこから発見する。

■ 野川

- ・ 商店街の衰退までの変遷を整理。
 - ・ 駅が便利になったから商店街は衰退した。
 - ・ 駅の機能を商店街まで広げてロータリーなど再配置する提案。
- > 駅を含めた広い範囲を提案しきれぬのか。
> アーケードを含めた建築を考える。

□ 総評

- ・ 誰のための提案か？というのが大事。
- ・ 現状図と自分が提案した後どうなるかという絵を描く。
- ・ 自分のわかる言葉で説明すること。自分の気持ちで話す。
- ・ 作業が進まない人は、止まっている原因がある。原因がなければ進む。

□ 連絡事項

- 次回必要なもの
- ・ スタディ模型
 - ・ パネル
 - ・ パワポ不要

□ 次回ゼミ

- ・ 2013 年 11 月 13 日 11:05～ 山田記念室

日時 : 2013年10月30日 水曜日 13:25~17:00
場所 : 山田記念室
出席 : B4 三木 大野 越田 小松 中畑 半田 白井 イ 小幡(記) 関口(記) 野川
欠席 : M2 金子
M1 板部 山田

ゼミ内容

B4 中間発表で何を言われたかと今後の展望

作業の途中経過確認

■三木

- ・敷地だけで、問題意識がない
- >深いサーベイが出来ていない。
- >踏み込んで考えること。
- >問題意識が未だに分からない。
- >後継者不足は卒業設計にならない。

■大野

- ・敷地だけで問題意識がない。
- >疑う気持ちがない。
- >踏み込んで考えてない。
- >工業団地でやるべきでは。

■越田

- ・木造のことを何も知ってない。
- >木造建築を実際に見に行く。
- >時代をこしてない。

■中畑

- ・団地を馴染ませるようにする
- >結局問題意識が何かわからない。
- >団地をいったん裸にしてみる。

■小松

- ・結局何を提案するのか
- ・島などの住民は土地との関係は根深い。
- >DRの時の問題意識と今の問題意識が食い違っているのでは？
- >分析ができていない。

■半田

- ・接地性を重視して他の部分が見えなくなっている。
- >問題意識はなにか？
- >接地性の先をいかない。
- >オリジナルの文章をもってくる。

■白井

- ・大開発的すぎる。
- >問題意識は結局何かわからない？
- >サービスエリアとどこが違うのか。

■イ

- ・月街を全部壊して再開発をする。
- >月街の残すべき部分はどこなのか？
- >全部壊すのは意味がない。
- >最終的なゴールが見えない。

■小幡

- ・敷地だけで問題意識がない。
- >様々な町づくりの事例を知らないから問題意識が作れない。
- >行き先がわからないまま走っている。
- >素直にいけば保存・修復系の卒業設計になるが画期的ではない。

■関口

- ・やろうとしていることが伝わらなかった。
- ・住民に必要なものを知る。

>出て行ってしまった人が定期的に帰ってくるような仕組みを作る。
>何を生み出すのかを考える

■野川

- ・やろうとしていることが伝わらなかった。
- ・規模が大きすぎる。

>商店街がだめになった理由を再度考える。

□総評

- ・問題意識がわかっていない。
- ・敷地の選び方が安易。

□連絡事項

- 次回必要なもの
- ・ パワポ

□次回ゼミ

- ・ 2013年11月6日 11:05～ 山田記念室

日時 : 2013年10月2日 水曜日 11:05~13:20,13:50~16:30
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: B4 半田(記) 白井 小幡 関口 野川
欠席 : M1 板部 山田
: B4 三木 大野 中畑 小松 イ

ゼミ内容

□ B4 卒業設計テーマ発表

□卒業設計テーマ発表

■越田

「木の良さを知る建築」

- ・木造軸組工法で図書館と木造技術展示場をつくる。
- ・敷地 神奈川県横浜市栄区(現在栄図書館がある)

- >木造建築を見に行く
- >先進事例を知ること
- >なぜ木がいいのかを突き詰めること
- >ただの木造ではつまらないので、架構をつくって、木の技術者養成所など。
- >大人数の目に触れるところに提案しなければ意味が無い。

■半田

「建築における接地性」

- ・建築外観に生活感があることは街全体の生活に安心感を与える。
 - ・敷地 東京都多摩市・豊洲地区/谷中地区
 - ・プログラム 集合住宅
- >データ・数値がなく具体的な着地点が分からない。
 - >比較点が違う参考事例は参考にならない。
 - >あいまいな空間を求めるのは日本人として当然。それを接地性でしぼるはずが、3ヶ月しぼれないので、一から考え直し。
 - >分からないなら手を動かして模型を作る。

■白井

「TOYOKAWA TOWN -車社会での人の繋がり方-」

- ・敷地 愛知県豊川市姫街道
- ・姫街道は、交通量はあるが衰退している状態。
- ・プログラム 姫街道の道路に計画する道の駅

- >道の上の提案は1階が暗くなってしまって歩けない空間になってしまう。
- >豊川らしさが無い。
- >規模が大きい。
- >現状が伝わらない。

■小幡

「気づかぬ歴史」

- ・敷地 新潟県長岡市摂田屋
- ・プログラム 道の駅
- ・醸造で栄えていたが今は衰退してしまった。

- >売り上げや従業員など基礎的なデータが足りていない。
- >問題意識がないのに敷地を選ばない。
- >醸造がどのようなことを考えているのか調べる。
- >自分が経験したことを分析できるようにする。

■関口

「あつまりん東栄町」

- ・敷地 愛知県設楽郡東栄町
- ・プログラム バス停+建築(住居)
- ・集まる施設を提案しようと思ったが、実際に需要が無い(住民意見より)。

- >東栄町の小学校(隣に寺、神社のある)の立地が面白い。
- >7つあった小学校が1つになってしまったことで、地域の拠り所が無くなってしまっていることが地域の問題。
- >田舎の良さを売る提案にする。

■野川

「長岡中心部再生」

- ・敷地 新潟県長岡駅前大手通り
- ・プログラム 雁木の上にアーケード+宿泊施設と観光物産店/職業訓練校と商店

>長岡の駅前は人が居ないので、人が居ることが大切。
>歩かせることが大切か。cf.)ニコレットモール、渋谷

□総評

□連絡事項

- 次回必要なもの
- ・ スタディ模型
 - ・ パネル
 - ・ パワポ不要

□次回ゼミ

- ・ 2013年10月9日 11:05～ 山田記念室

日時 : 2013年9月25日 木曜日 13:25~16:50
場所 : 山田記念室
出席 : B4 三木 大野 中畑 越田(記) 小松(記) 半田 白井 イ 小幡 関口
: M1 板部 山田
: M2 金子
欠席 : B4 野川

ゼミ内容

B4 作業途中経過確認

作業途中経過確認

■三木

- ・阪神なんば線延伸によって問題となる「住工混在」
- ・崩れかけている町工場コミュニティを支える提案

>問題意識が普通。
>住工混在の問題を踏まえてその先をやらないと提案にならない。
>事業計画を考えただけ。

■大野

- ・愛川町が空洞化している。

>何の中に空洞があるのか？
>設計でなく事業計画に過ぎない。
>収入を得ないと福祉はできない。

■越田

- ・良い空間だとはおもっても木を意識することは少ない。
- ・薄れゆく木の存在感を見せ方で強調する。

>どうしたいのか？
>木を意識させることはどういいのか？
>結果的にどうなるのか？

■中畑

- ・団地は30年で世代が代わる。
- ・分譲はずっと住んでいるが賃貸は地に足がついていない。

>他の団地を見ること。
>視野を広げること。
>町田や団地におさまらず外まで見ること。

■小松

- ・祝島で一つの建築ではなく集落一体として考える。
- ・村岡さんの家の地図の分析

>お金を稼ぐことが解決の方法ではない。
>歴史観がない。
>過去にどうやって生きてきたか？命をつないできたか？

■半田

- ・「今ある便利な暮らしをしながら、下町の暮らしの良さがある」暮らしの提案。
- ・オープンだけど、プライバシーも守られる、中間領域の作り方の提案。

>先進事例がどうなっているのか判断する。
>接地していないもので、接地しているものを考える。
>身の丈にあった提案をする。

■白井

- ・役所の計画を調べた。
- ・地図作成

>都市計画図、用途地域図をもらってくる。
>姫街道でやりたいなら、姫街道についてもっと調べる。
>街がどうなってほしいか、どこを残しておきたいかを見つける。
>そこになにをつくるべきなのかを考える。

■イ

- ・ソウルの都市化によってつくられた月街は貧困層が集まって暮らし貧しい生活の中で自然とコミュニティが生まれる街である。

>リアリティがあるものを夢物語では済まない。

>韓国らしさを出さなくてはいけない。
>建築学科としての知識をもって提案する。

■ 小幡

・ 摂田屋地域について

>なぜ知らなくちゃならないかを示さないとなんの訴えにもならない。
>なぜここに酒屋ができたのかなどの歴史的な経緯があってはじめて長岡の人にとってここは衰退しているとわかり、ここをつくり直そうということが提案になる。

■ 関口

・ 愛媛県北設楽群東栄町
・ 7校の小学校が1校になってコミュニティが希薄化している。

>自然を感じることは都会の人たちには良い。
>小学校・中学校の現状を調べる。

□ 総評

・ 先進事例はなぜ事例としていいのか？
・ 絵をブログにあげる。

□ 連絡事項

・ なし

□ 次回ゼミ

・ 2013年10月9日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年9月18日 木曜日 13:25~19:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
 : M1 板部 山田
 : B4 三木 大野(記) 中畑(記) 小松 半田 白井 小幡 野川
欠席 : B4 越田 イ 関口

ゼミ内容

□ B4 卒業設計テーマ発表

□卒業設計テーマ発表

■三木

「身体に近い建築」

- ・敷地
- ・天井や壁の操作による空間体験の違い。

>今までの建築家が何を問題として何をつくってきたか知る。
>「身体性」は当たり前。しかし感覚的でセンシティブなので言葉にするのは難しい。文学的な表現にだまされるな。
>ピーター・ズントーのヴァルスの温泉は成功している。これは田舎の村おこし。
>春学期の小さい(狭い)空間のようなものの方が三木らしいのでは?しかし社会性のある提案をすること。

■大野

「消え去る町の記憶」

- ・敷地 愛川町
- ・工業化、高齢化の進む愛川の現状について。
- ・愛川マップの作成。

>地図のデータは正確に記入すること。
>愛川は歯抜け状態になっている。デトロイトと同じ。
>雇用を生まなければ若い人は町に入っていない。

■中畑

「記憶を紡ぐ建築」

- ・敷地 高ヶ坂、奈良町
- ・団地再生の事例の分類と分析。子どもがいないことが問題ではないか。
- ・敷地サーベイと敷地の特徴について。

>事例に対する理解や踏み込みがまだ浅い。
>団地は現在使命を果たして、残された資産をどうすべきか困っている。
>団地の良さを残しながら、団地ではなく町の一部として使われる方法を考える。

■小松

「いのちをつなぐ建築」

- ・敷地 祝島
- ・敷地サーベイと敷地の分析。
- ・祝島で考え得るシナリオ。

>祝島のスケールを理解すること。
>島の人と部外者との距離は変わらない。
>島に若い人は必要。これは観光に限らず、林間学校とかサマースクールだとか、他の仕組みがあるかもしれない。
>島の一番良かった時期を知らなければならない。
>シナリオを全て合わせた案になるのでは。

■半田

「建築における接地性」

- ・敷地
- ・接地型建築の事例と分析。
- ・問題意識と近い事例や目指す方向性の提示。

>「接地」の何が革新的だったのか知るべき。
>接地性の中の何に興味があるのか絞る。広がりすぎると手に負えない。
>今までの接地型の建築とどこが違うものをつくりたいのか。

■白井

「TOYOKAWA TOWN -車社会での人の繋がり方-」

- ・敷地 愛知県豊川市
- ・敷地サーベイと分析

- > 地方都市特有の問題。
- > きちんと地図をかく。
- > 役所と同じことをしては意味がない。
- > 車と建築を合体させた、カーアーキテクチャを考えるのでは。

■小幡

「ひとり親家庭のための建築」

- ・シェアハウスの事例調査・分析

- > ただのシェアハウスとシングルマザー・ファザー専用シェアハウスは変わらない。
- > 海外の方が事例は多い。
- > シェアハウスのその先を考えなければ問題にならない。
- > 日本の大家族住宅と変わらない。

■野川

「長岡中心部再生」

- ・敷地 長岡
- ・サーベイと敷地の分析

- > なぜ中心部には人がすまないのか考えなければならない。
- > 商店街を対象にするにはスケールが大き過ぎるのでは。

□総評

- ・ 全員ピントが外れている。卒業設計のテーマとして考えること。
- ・ 図面をかく。
- ・ スケール感が把握されていない。
- ・ 模型は最大1/100が限界。
- ・ 自然や都市とバランスをとる様な提案を考える。
- ・ 今までの発想と異なるものを考える。

□連絡事項

・

□次回ゼミ

- ・ 2013年9月25日 11:05～ 山田記念室

日時 : 2013年7月4日 木曜日 13:25~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 三木 大野 中畑 越田 小松 半田 白井(記) イ(記) 小幡 野川 関口

ゼミ内容

- B4 日本建築学会コンペ
- DR A1 パネル提出

日本建築学会コンペ

■三木・大野

- 敷地 愛川
- ・パネルの文字など細かな場所を
 - ・提案を道だけでなく、子供たちの青空教室（多目的室）を付け加えた。

- >センタリングを使わない。
- >構造が分かるものがない。
- >高低差がわからない。断面図は1/100か、せめて1/200で書く。
- >前半のサーヴェイ（自分で調べたもの）をもっと主張すべき。もったいない。

■小幡・イ

- 敷地 四ツ木
- ・広場をつくり、その近くに壁を立て、車を入れて来にくいようにし、また人々のたまり場をつくる。
 - ・交通量の多い3本の道を選んで提案した。

- >この壁があっては、来づらいというより曲がれない。
- >なんでこの敷地にしたのか（この道を選んだのか）分かりづらい。
- >みんなが分かるようなパネルにしなければ、誰にも分からないし、伝わらない。だから、やっていない事と同じことであるからもったいない。
- >真ん中に壁を置くのは提案にしては弱い。壁を建てる価値をもっと考え、主張すべき。

■山田・野川

- 敷地 深沢
- ・道路に屋根をかけ人々の集まれる場所をつくる。
 - ・ループしてしまっていた場所を行き止まりにし、プライベート感をだす。また、ポストを配置し、みんなの玄関となるような場を提案し住民の関わりをつくる。
 - ・一番交通量の多い道は一車線にし、スピードを落とせるようにした。

- >パネルを見てどこに何をやっているのか分からない。
- >どんな屋根で、どんな空間にするのか魅力的な空間かもっと説明すべき。そのためには、イメージだけでなくスケールが分かるような断面図を書くべき。
- >模型写真がほしい。

■小松・白井

- 敷地 開成町
- ・今までの集めた情報を整理。

- >全体の分析図をなんで使わないのか。
- >分析を正しく理解して、ダイアグラムにしていくのが弱い。
- >TOP画にもっと提案部分を書き込むべき。なにを提案し、何のために何を書いているのか分からない。

■中畑・半田

- 敷地 下大槻団地

- ・パネルの文字を減らし、図でわかりやすいようにまとめ直した。
- ・視線の抜けや、人の動線、なかの構造がわかるようにアクソメ図と中から見える風景画を加えた。
- >文字が小さすぎる。絵も小さすぎてもったいない。
- >模型がなく、絵だけではイメージ図であるから、細かなところまで理解できない。どこまでが現状で、なにを提案したのかがわかりづらい。
- >動線を書く事は、建築ではなく計画である。
- >パネルが全体的に上品すぎる。メリハリをつけるべき。

■越田・関口

- 敷地 代官山
- ・地図の範囲の色分けをさらに行い、代官山の現状をさらに加えた。
 - ・くぼみの密度を上げ、またくぼみの深さを変える事により、車のスピード制限も行えるようにした。

- >書く事がない場合は、トップ画を下まで下げたり、見出しをつけるだけで未完成

を感がごまかせる。
パネルを展示し、データをDropboxにあげること。

□DR

■三木

「壁、天井、開口の振る舞い」

- ・実家の狭い部屋に居心地を感じた。
- ・壁が内側に倒れてきている事により狭さを感じる。
- ・狭く感じさせる要素として壁、天井、家具があげられる。それを和らげるものに、開口からの光や、天井の高さなどがあげられる。

>なにが問題なのか分からない。狭い空間に興味があるのか、斜めの壁に興味があるのか。
>屋根裏部屋などの「cozy」と言われる空間は落ち着くという事は分かるが、それと斜めの壁は関係あるのか。
>狭い空間に興味があるのなら、最小限の住宅をつくればよい。

■大野

「ネガティブな都市」

- ・愛川町の内陸工業団地は通り抜けれるのに、人々に使われていないところにマイナスのイメージを感じた。
- ・都市の負の感情がある場合は、病院、葬祭場、袋小路などがあげられる。限られる人しか使わない、病気や死を感じる場だから。私的な空間には入りづらいため感じる。
- ・建築を計画する時に外部と内部を切り分けて考えられているため、このような問題が起きているのではないか。

>弱いとは何に対して弱いのか評価軸をつくる。
>みんな負けた（弱い）建築をつくっているのではないのか。
>弱いことはなぜいいのかを、イメージではなく正しく理解する。

■越田

「包まれる建築」

- ・木材には落ち着き安心感を感じる。
- ・木目、肌触り、色から感じる
- ・安心感のある建築とは、包み込まれるような空間なのではないか。

>問題意識はなんなのか。
>木材（材料）に関してもっと勉強するべき。
>木造の建築と木の建築は違うため、木の建築をつくっていくのが良いのでは。

■中畑

「面影を残した場」

- ・「エイジング」に興味をもった。
- ・街には時代のギャップによって使われなくなってしまった建築が、新しくなり面影を無くしてしまう事に寂しさを感じた
- ・建築に対する、記憶や、住民からの愛着が薄れてしまう。
- ・再び年を重ねるような建築を建てたい。

>これだけではテーマにならない。
>フランスは昔の建築を大切にすぎで、新しいものができにくいこともあり昔のものがいいのでは限らないのでは。
>ノスタルジーだけでは困る。どんなに完成されたものでも進化し続けることも大切なのではないか。
>記憶を残す建築をつくっていくのが良い。プリントできるような建築をつくっていくのが良いのでは。

■小松

「原発とエネルギー」

- ・原発とエネルギーは切っても切りはなせない。

>原発だけを反対するのは間違っている。
>原発を建築にしていくと、結局省エネになるのでは。
>もっと勉強して知識を身につける。

■半田

「建築における接地性」

- ・複数の建築を分析し、やりたい接地性のある建築を考えてみる。
- ・場所性を持たない接地性のある空間を提案

- > 接地性があるようで無い空間を設計していくのが楽。
- > どの場所いても接地性のある空間がいいのでは。

■白井

「人の動きの視覚化による空間」

- ・ 人の動きや流れがつくる空間に興味をもった。
- ・ 人の動きを視覚化することにより、人の関わりを増やしたり、人の行動範囲を広げる事ができるのではないか。

- > ActivityとBehaviorの違いがわからない。
- > 住宅でもアクティビティをつなげて空間をつくるのが現在も行われている。
- > 21美は人間の動き方を固定しないアクティビティの動きに面白さがある。
- > もっとアクティビティについて理解すべき。

■イ

「ズレ、ジグザグ、デコボコ-歪み」

- ・ ズレ、ジグザグは角度をもつことによって空間を演出している。平面、断面でのズレ、ジグザグの操作を分析し考える。
- ・ マイナスな空間を、歪みという建築操作を用いて、プラスの空間をつくっていきたい。

- > 屋根を延ばすことにより仮想的な空間が生まれるなど、日本の建築はそのような場があり面白い。
- > シンメトリーな空間はどこにいるのか分からなくなり、ずらすことにより動きを与え、場所性を与えている。
- > ズレなどは、どの建築家も意図を持って行っている。その意図をもっと読み取り頭でるものではないものをつくると良い。

■小幡

「建築の消失」

- ・ 今まで建築を設計する時に風景になじませることを考えてきた。
- ・ 周りのことを考えない暴力的な建築に興味を感じた。
- ・ 暴力的でない=風景と同化=消える建築 ではないか。

- > 建築を消すことと、機能を消すことは同じなのか。建築を消すとはどのような意味なのか。
- > 視線が通れば消えるのか。
- > あるけど、無いものと感じるものがよい。地下に埋めるだけでは、解決にならない。
- > 風景に溶け込ませることは建築を消すことではない。なにを消すことによって消えたように感じるのか。
- > 消すのではなく、形の無い建築を考える方がよい。

■野川

「都市の「奥」住宅の「奥」」

- ・ 谷戸空間の一本道、山に囲われた谷場の空間に興味を感じた。
- ・ 日本の地形は山や川などに自然によって独特な土地がつくられてきた。土地に対する土俗信仰が強い。土地の持っている力を信じている。
- ・ 現代はその場所の固有性が失われているが、谷戸空間は場所性を豊かにしている。
- ・ 到達するための空間に興味をもち、その空間には「独立性」や「奥」を感じる。
- ・ 「奥」という概念を深めることによって建築をつくっていききたい。

- > 領域論の問題であるため、どこからが奥で、どこまでが奥の手前なのかを理解すべき。

■関口

「消えつつある緊張感」

- ・ 空を見上げることが少なくなった現代の人々は、自然を感じる事が少なくなったのではないか。
- ・ 昔の人は、時間感覚や天気などを自然と関わり合いながら過ごしている
- ・ 人間は七つの「チャクラ」を持っている。
- ・ 現代の人は情報量の多さにより、野性的感覚がなくなっているのではないか。

- > センシティブに過ごすことを言うのは簡単だが、実際にそれができるのか。
- > 身体性の話は上手くいかないからやめたほうがよい。
- > 昔の人は家を長く生きながらえていくための知恵を沢山もっていたが、今は知られていない。そのような、自然と生活が離れてしまっていることに興味があるのでは。

□総評

- ・ 勉強が足りない。案をしぼって考えていくべき。

□連絡事項

・なし

□次回ゼミ

・2013年7月11日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年6月27日 木曜日 14:30~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田(記) 小松(記) 白井 三木 大野 中畑 越田 イ 小幡 野川 関口
欠席 :

ゼミ内容

□ B4 日本建築学会コンペ

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 愛川 ・崖に空中歩道をつくり愛川町を繋げる。

- > 唯一コンペ案になっている。
- > 空中歩道をもう少し建築化できれば○。
- > 歴史を並べるだけでなく分析をしなければならない。
- > 教育的視点があってもいいのでは。
- > 建築、ミチ、公共かわからないものをつくればおもしろい。
- > 将来を考えて子ども達のために何かをつくるのが良い。

■小幡・イ

敷地 四ツ木 ・道にストリートファニーチャーを置く。
・ストリートファニーチャーを置いて十字路だと認識させる。

- > 古い街はぐちゃぐちゃだけど迷わない。
- > 下町で残る昔ながらの道空間に戻す。
- > 迷いやすいものを迷わないものへ
- > タイトルがひどい。何がしたいのかわからない。

■小松・白井

敷地 開成町 ・昔からある水路をミチ化して北部と南部を繋げる。

- > パネルxストーリーの作り方○。
- > 開成町の地区毎の分析が必要。
- > 開成町の全体図が必要。どれが水路、街路、農地なのかを説明する。
- > 子どもが使っていない時にも近所の人が使える機能を。
- > 妹島さんの犬の家プロジェクトの作品を参考にする。

■中畑・半田

敷地 下大槻団地 ・ヴォイド、ブリッチを使い団地を繋げる。
・高齢者の歩ける町づくり。

- > パネルを整理して分かりやすく。
- > 団地だけではない視点を盛り込めるか。
- > 少しヴォイドが大きい。
- > タイトルの接地性はかたい。

■越田・関口

敷地 代官山 ・代官山の裏を発見させてくれる街。
・代官山の裏をさらに裏っぽくする。

- > なぜ代官山は裏を気付かせてくれるのか。
- > 代官山の広がりかわからない。
- > 代官山の魅力は他の街とどう違うか。

□総評

- ・ まずレイアウトしてやることを決める。
- ・ タイトルをきちんと考える。
- ・ 何をやり直すか、残すかを考えて計画的にやる。

□連絡事項

- ・ なし

□次回ゼミ

・ 2013年7月4日 13:25~ 山田記念室

日時 : 2013年7月4日 木曜日 13:25~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 三木 大野 中畑 越田 小松 半田 白井(記) イ(記) 小幡 野川 関口

ゼミ内容

- B4 日本建築学会コンペ
- DR A1 パネル提出

日本建築学会コンペ

■三木・大野

- 敷地 愛川
- ・パネルの文字など細かな場所を
 - ・提案を道だけでなく、子供たちの青空教室（多目的室）を付け加えた。

- >センタリングを使わない。
- >構造が分かるものがない。
- >高低差がわからない。断面図は1/100か、せめて1/200で書く。
- >前半のサーヴェイ（自分で調べたもの）をもっと主張すべき。もったいない。

■小幡・イ

- 敷地 四ツ木
- ・広場をつくり、その近くに壁を立て、車を入れて来にくいようにし、また人々のたまり場をつくる。
 - ・交通量の多い3本の道を選んで提案した。

- >この壁があっては、来づらいというより曲がれない。
- >なんでこの敷地にしたのか（この道を選んだのか）分かりづらい。
- >みんなが分かるようなパネルにしなければ、誰にも分からないし、伝わらない。だから、やっていない事と同じことであるからもったいない。
- >真ん中に壁を置くのは提案にしては弱い。壁を建てる価値をもっと考え、主張すべき。

■山田・野川

- 敷地 深沢
- ・道路に屋根をかけ人々の集まれる場所をつくる。
 - ・ループしてしまっていた場所を行き止まりにし、プライベート感をだす。また、ポストを配置し、みんなの玄関となるような場を提案し住民の関わりをつくる。
 - ・一番交通量の多い道は一車線にし、スピードを落とせるようにした。

- >パネルを見てどこに何をやっているのか分からない。
- >どんな屋根で、どんな空間にするのか魅力的な空間かもっと説明すべき。そのためには、イメージだけでなくスケールが分かるような断面図を書くべき。
- >模型写真がほしい。

■小松・白井

- 敷地 開成町
- ・今までの集めた情報を整理。

- >全体の分析図をなんで使わないのか。
- >分析を正しく理解して、ダイアグラムにしていくのが弱い。
- >TOP画にもっと提案部分を書き込むべき。なにを提案し、何のために何を書いているのか分からない。

■中畑・半田

- 敷地 下大槻団地

- ・パネルの文字を減らし、図でわかりやすいようにまとめ直した。
- ・視線の抜けや、人の動線、なかの構造がわかるようにアクソメ図と中から見える風景画を加えた。
- >文字が小さすぎる。絵も小さすぎてもったいない。
- >模型がなく、絵だけではイメージ図であるから、細かなところまで理解できない。どこまでが現状で、なにを提案したのかがわかりづらい。
- >動線を書く事は、建築ではなく計画である。
- >パネルが全体的に上品すぎる。メリハリをつけるべき。

■越田・関口

- 敷地 代官山
- ・地図の範囲の色分けをさらに行い、代官山の現状をさらに加えた。
 - ・くぼみの密度を上げ、またくぼみの深さを変える事により、車のスピード制限も行えるようにした。

- >書く事がない場合は、トップ画を下まで下げたり、見出しをつけるだけで未完成

を感がごまかせる。
パネルを展示し、データをDropboxにあげること。

□DR

■三木

「壁、天井、開口の振る舞い」

- ・実家の狭い部屋に居心地を感じた。
- ・壁が内側に倒れてきている事により狭さを感じる。
- ・狭く感じさせる要素として壁、天井、家具があげられる。それを和らげるものに、開口からの光や、天井の高さなどがあげられる。

>なにが問題なのか分からない。狭い空間に興味があるのか、斜めの壁に興味があるのか。
>屋根裏部屋などの「cozy」と言われる空間は落ち着くという事は分かるが、それと斜めの壁は関係あるのか。
>狭い空間に興味があるのなら、最小限の住宅をつくればよい。

■大野

「ネガティブな都市」

- ・愛川町の内陸工業団地は通り抜けれるのに、人々に使われていないところにマイナスのイメージを感じた。
- ・都市の負の感情がある場合は、病院、葬祭場、袋小路などがあげられる。限られる人しか使わない、病気や死を感じる場だから。私的な空間には入りづらいと感じる。
- ・建築を計画する時に外部と内部を切り分けて考えられているため、このような問題が起きているのではないか。

>弱いとは何に対して弱いのか評価軸をつくる。
>みんな負けた（弱い）建築をつくっているのではないのか。
>弱いことはなぜいいのかを、イメージではなく正しく理解する。

■越田

「包まれる建築」

- ・木材には落ち着き安心感を感じる。
- ・木目、肌触り、色から感じる
- ・安心感のある建築とは、包み込まれるような空間なのではないか。

>問題意識はなんなのか。
>木材（材料）に関してもっと勉強するべき。
>木造の建築と木の建築は違うため、木の建築をつくっていくのが良いのでは。

■中畑

「面影を残した場」

- ・「エイジング」に興味をもった。
- ・街には時代のギャップによって使われなくなってしまった建築が、新しくなり面影を無くしてしまう事に寂しさを感じた
- ・建築に対する、記憶や、住民からの愛着が薄れてしまう。
- ・再び年を重ねるような建築を建てたい。

>これだけではテーマにならない。
>フランスは昔の建築を大切にすぎで、新しいものができにくいこともあり昔のものがいいのでは限らないのでは。
>ノスタルジーだけでは困る。どんなに完成されたものでも進化し続けることも大切なのではないか。
>記憶を残す建築をつくっていくのが良い。プリントできるような建築をつくっていくのが良いのでは。

■小松

「原発とエネルギー」

- ・原発とエネルギーは切っても切りはなせない。

>原発だけを反対するのは間違っている。
>原発を建築にしていくと、結局省エネになるのでは。
>もっと勉強して知識を身につける。

■半田

「建築における接地性」

- ・複数の建築を分析し、やりたい接地性のある建築を考えてみる。
- ・場所性を持たない接地性のある空間を提案

- > 接地性があるようで無い空間を設計していくのが楽。
- > どの場所いても接地性のある空間がいいのでは。

■白井

「人の動きの視覚化による空間」

- ・人の動きや流れがつくる空間に興味をもった。
- ・人の動きを視覚化することにより、人の関わりを増やしたり、人の行動範囲を広げる事ができるのではないかと。

- > ActivityとBehaviorの違いがわからない。
- > 住宅でもアクティビティをつなげて空間をつくるのが現在も行われている。
- > 21美は人間の動き方を固定しないアクティビティの動きに面白さがある。
- > もっとアクティビティについて理解すべき。

■イ

「ズレ、ジグザグ、デコボコ-歪み」

- ・ズレ、ジグザグは角度をもつことによって空間を演出している。平面、断面でのズレ、ジグザグの操作を分析し考える。
- ・マイナスな空間を、歪みという建築操作を用いて、プラスの空間をつくっていきたい。

- > 屋根を延ばすことにより仮想的な空間が生まれるなど、日本の建築はそのような場があり面白い。
- > シンメトリーな空間はどこにいるのか分からなくなり、ずらすことにより動きを与え、場所性を与えている。
- > ズレなどは、どの建築家も意図を持って行っている。その意図をもっと読み取り頭でるものではないものをつくると良い。

■小幡

「建築の消失」

- ・今まで建築を設計する時に風景になじませることを考えてきた。
- ・周りのことを考えない暴力的な建築に興味を感じた。
- ・暴力的でない=風景と同化=消える建築 ではないかと。

- > 建築を消すことと、機能を消すことは同じなのか。建築を消すとはどのような意味なのか。
- > 視線が通れば消えるのか。
- > あるけど、無いものと感じるものがよい。地下に埋めるだけでは、解決にならない。
- > 風景に溶け込ませることは建築を消すことではない。なにを消すことによって消えたように感じるのか。
- > 消すのではなく、形の無い建築を考える方がよい。

■野川

「都市の「奥」住宅の「奥」」

- ・谷戸空間の一本道、山に囲われた谷場の空間に興味を感じた。
- ・日本の地形は山や川などに自然によって独特な土地がつくられてきた。土地に対する土俗信仰が強い。土地の持っている力を信じている。
- ・現代はその場所の固有性が失われているが、谷戸空間は場所性を豊かにしている。
- ・到達するための空間に興味をもち、その空間には「独立性」や「奥」を感じる。
- ・「奥」という概念を深めることによって建築をつくっていききたい。

- > 領域論の問題であるため、どこからが奥で、どこまでが奥の手前なのかを理解すべき。

■関口

「消えつつある緊張感」

- ・空を見上げることが少なくなった現代の人々は、自然を感じる事が少なくなったのではないかと。
- ・昔の人は、時間感覚や天気などを自然と関わり合いながら過ごしている。
- ・人間は七つの「チャクラ」を持っている。
- ・現代の人は情報量の多さにより、野性的感覚がなくなっているのではないかと。

- > センシティブに過ごすことを言うのは簡単だが、実際にそれができるのか。
- > 身体性の話は上手くいかないからやめたほうがよい。
- > 昔の人は家を長く生きながらえていくための知恵を沢山もっていたが、今は知られていない。そのような、自然と生活が離れてしまっていることに興味があるのでは。

□総評

- ・勉強が足りない。案をしぼって考えていくべき。

□連絡事項

・なし

□次回ゼミ

・ 2013年7月11日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年6月20日 木曜日 14:30~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田 白井 三木 大野 中畑(記) 越田(記) 小松 イ 小幡 野川 関口
欠席 :

ゼミ内容

□ B4 日本建築学会コンペ

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 愛川 ・まちの人々は崖線により取り残された愛川の原風景を知らない。
・子ども達が利用することによって、愛川の文化を継承することを目的とする。

- > 子どもに関係ないのではないか。
- > 崖下の魅力とは何か明確にする。
- > 大通り沿いに目を向け、アプローチを考える。
- > スロープではなく、ブリッジのような素直な提案が良い。

■小松・白井

敷地 開成町 ・水路と生活の密接な関係に注目し、北までの道を通す。
・生産するまちから消費するまちにする。

- > 北へ向かう理由は何か。
- > 水路の上に橋をつくるのはどのようなメリットがあるのか。
- > バスを利用するなら、利用できる様なプログラムを考える。
- > 物事の流れを図にまとめること。
- > 起承転結にまとめる。

■中畑・半田

敷地 下大槻団地
・閉ざされた団地へ周囲の風景を抜いて見せることで土地勘を与える。
・見て知ること、歩いて経験することを提案する。

- > 接地性と土地勘の間のキーワードを探す。
- > ケーススタディとして相応しい提案にする。
- > 道路の上もブリッジはかけられる。
- > 明らかに団地が変わる様子がほしい。

■越田・関口

敷地 代官山 ・裏を裏らしくする。
・裏以外を目立たせることで、裏を際立たせる。

- > 情報センターというプログラムは安易すぎる。
- > 周囲の商業施設との関係を見直す。
- > 何を裏と呼んでいるのか書く。

■小幡・イ

敷地 四ツ木 ・四ツ木は路地的な独特の形状であり、道に魅力を感じる。
・迷いやすい場を迷いにくい場にしたい。

- > 交差点を減らすと道に迷うことが減る。
- > みんなが整理されてしまうことを良いと思うか。
- > 四ツ木の問題意識とは。
- > 人をここへ引き込むことはどのようなメリットがあるのかを伝えること。

■山田・野川

敷地 深沢 ・元の谷戸の姿が失われている。
・谷戸の形状によって生まれる密なコミュニティに魅力を感じる。

- > あまりにも人工的な提案。
- > 提案が現状に合っていないので、谷戸の環境を考慮した上で提案を考え直す。
- > パネルに提案の絵が足りない。

■金子・板部

敷地 西戸部 ・変わらない地形と風景に対し、変化する建築や人々の境界。
・木密が抱える問題の解消。

- > 4m以下は道路とみなさない。

>建て替えの際はセットバックし、道路を確保しなくてはならない。
>これによって人々がどうなるのか。

□総評

- ・ 来週（6月27日）までに提案の密度をあげる。
- ・ 長い文章を書かず、一つの小見出しに3行程度でまとめる。
- ・ トップ画は提案が一目でわかるような絵にする。アングルを考える。
- ・ A3に縮小しても見えるパネルをつくる。

□連絡事項

- ・ なし

□次回ゼミ

- ・ 2013年6月27日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年6月13日 木曜日 14:32~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田 白井 三木(記) 大野(記) 中畑 越田 小松 イ 小幡 野川
欠席 : 関口

ゼミ内容

□ B4 日本建築学会コンペ

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 愛川 ・工業の町として更新され崖線により取り残された愛川の原風景に魅力を感じる。
・町の人は原風景を自然の一部と思い、愛川の文化を知らない。

> 川沿いに文化は発達するから、崖線にも文化がある。

> 見えない地域を見えるようにする提案をする。

> 潜望鏡の様なアナログ装置を考える。なぜなら建築はアナログだから。

> 実際は崖に木が生えている。

> ブリッジの様なものを架けるなら、自然を大きく壊さない提案ができるはず。

■小幡・イ

敷地 四ツ木・よく使われる道と使われてない道の調査。

・グリッド状の街でも迷う。

・四ツ木は路地的な独特の形状であり、道に魅力を感じる。

> 道に迷うことは高度なことで、都市の情報処理能力が追付かないから迷う。

> 歩く時は、主観的に見る。

> 四ツ木の問題意識とは。

> 相手に受け取ってもらう為には、論理を通す。

■山田・野川

敷地 深沢 ・谷戸の形状に魅力を感じる。
・3つの谷戸が先端で繋がれていることに興味をもった。

問題意識 ・谷戸が繋がれることにより、通過交通になり谷戸の良さが失われてしまう。

> 分析図で示す。

> 谷戸同士の違いを示す。

> 3つの谷戸が繋がっている面白さを、絵でかく。

> 広範囲の地図を作り、発見を地図に書き込む作業をすること。

■小松・白井

敷地 開成町 ・今までの集めた情報を整理。

> 話に理論性がなく、組み立てられていない。

> 開成に新しい風景を作る。

> バスを利用するなら、利用できる様なプログラムを考える。

> 文章は2行まで、長くても3行。

> どの情報が大事かを区別する。

■中畑・半田

敷地 下大槻団地

・団地の屋上に展望台を設ける提案。

・高齢者の歩ける町づくり。

問題意識 ・時代の変化による「家族形態」に「土地と人の関係性」がついてきていない。

> 展望台には誰が上るのか。

> 高齢者は元から歩けるが、外にでて歩かせるのが提案なのか。

> 手書きの絵をかけ。

■越田・関口

敷地 代官山 ・代官山・恵比寿の分布を調査。
・お気に入りの裏空間を作る。

> 地図に示したデータをパネル化すること。

> どのようなモノがお気に入りと言えるのか。

> bestの表現は人によって異なる。

> 代官山が、徐々に恵比寿に浸食されている絵をかく。

□総評

- ・ 来週（6月20日）の提出に向け、提案まで決めほぼ完成させる。
- ・ 社会には理論を求められる。
- ・ 1つの絵で3つ説明できるような絵をかく。
- ・ 案が出ないのは、知識が少ないのではなく、情報処理ができていないため。
- ・ ネタを作って、シュミレーションする。
- ・ 「パネルを埋める」という考えは良くない。

□連絡事項

- ・ なし

□次回ゼミ

- ・ 2013年6月20日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年6月6日 木曜日 13:20~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田 白井 三木(記) 大野(記) 中畑 越田 小松 イ 小幡 関口 野川

ゼミ内容

- B4 日本建築学会コンペ
- B4 DR 発表

日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 愛川 ・甲州街道沿いに宿場町があった

- ・ 農業が盛んだったのに工業へとシフトチェンジしてしまった
- ・ 工業が発展し人が流入してきたことで団地群ができた
- ・

問題意識

- ・ 飛行場の建設によって縦の軸ができ町が分断されてしまった
- ・ 農業が衰退してしまって愛川の良さが見えなくなっている

- > 見えない町を見えるようにする
- > 中を車で通れるのにみんな通らないのはなぜか
- > まちの中心が変わったことを図で示す

■小幡・イ

敷地 四ツ木 ・人が集まる場所やまちを分析し直し地図に落とし
・ 商店街によってにぎやかな場所と寂しい場所がある

問題意識

- ・ 空き家が集中している場所がある

- > 自分の判断で地図を分析せず事実を元に表記する
- > 感じたことや発見をもっと分析する

■山田・野川

敷地 深沢 ・極楽寺の谷戸の良さをもう一度分析
・ 稲村ヶ崎

問題意識

- ・ 谷戸が繋がれることにより、通過交通になり谷戸の良さが失われてしまう。

- > 道に着目したのなら道をもっと分析し比較する
- > 何を乗り越えようとしているのか
- > 極楽寺にある谷戸と同じ条件を作り出す

■小松・白井

敷地 開成町 ・問題意識を再確認し分析をし直して提案を進める

- > 人をどう歩かせるかを考える
- > 開成に新しい風景を作る

■中畑・半田

敷地 下大槻団地

- ・ 展望できる空間を設ける
- ・ お店やバス停など土地に残っているものをリノベーション

問題意識

- ・ 時代の変化による「家族形態」に「土地と人の関係性」がついてきていない

- > どうやって土地とのインタラクションを生み出せるのか
- > まちの見え方、視点を操作する

■越田・関口

敷地 代官山 ・代官山・恵比寿の分布を調査
・ 住民が使う細い路地を残したい

- > ただのイメージではなく歩いての発見をもっと書き込む
- >

□総評

- ・ パネルのTOP画が重要
- ・ メインに持ってくるものには一番伝えたいことを示す
- ・ 柔らかい発想のためには知識が必要
- ・ 頭をまわすには体を動かすなど脳の活性化が必要
- ・ やり方を変えることで見えてくるものがある
- ・ 古地図を利用できるのは有利

□連絡事項

- ・ 来週A1×2のパネルを提出

□次回ゼミ

- ・ 2013年6月13日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年5月30日 木曜日 13:25~20:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 三木 大野 中畑 越田 小松 半田 白井(記) イ 小幡(記) 関口 野川
欠席 : なし

ゼミ内容

□ B4 日本建築学会コンペ

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 愛川町 ・内陸工業団地によって風景が変わりつつあり、今までの商店との間に境界があるのではないか。
・昔空港があった所の街区が残っていておもしろい。
・下平地区には地形的な境界があるのではないか。
・工場のせいで下平地区との関係がないので、昔の町と今の町に境界があるのではないか。

> まず、愛川町のベースを調べる。

> なぜ駅もないし、何も無いのに、この町は栄えているのか。

> 自分の考えを一つのダイアグラムにまとめる。

■小幡・イ

敷地 四ツ木 ・街区の部分とスーパーのある位置では境界があるのではないか。
・四ツ木は区画整理が早く行われて現在も変わらない街となっている。

> 発見が何も無い。

> 過去をしっかりと押さえる。

> 四ツ木にいかないのはいく理由がないから。

> スーパーは関係ない。

■越田・関口

敷地 代官山 ・東急東横線が代官山から渋谷にかけて地下かされた。
・旧表通りが表で、キャッスル通りは裏に感じる。だが、キャッスル通りと東横線から恵比寿側を見るとキャッスル通りが表に感じる。
・分断されていたところを繋いでしまうと、誰もが近道を使い、静かな空間が失われてしまう。
・東横線跡地を提案する。

> 跡地はどうなる計画なのか。

> キャッスルストリートの人が入ってこないようにすればよいのか。

> どこまでが代官山なのか調べると面白い。

> 表と裏をイメージではなく書き込む。裏も表も存在する場が面白いかもしれない。

> どこまでが面白く、どこからつまんないのかなど、代官山について調べて、イメージを、絵、図示などしてみる。

■山田・野川

敷地 深沢 ・地形により谷戸はプライベート感が増している。
・道の長さ、道の幅の長さによりプライベート感が増している。
・昭和30年に移り住んで来た人も新しい人と感じている。
・町の行事も途絶え、コミュニティーも昔からの人々と新しく来た人々とでなくなっている。
・稲村ヶ崎の谷戸の先端がつながってしまったので、人と土地を繋ぐような提案をしたい。
・七里ヶ浜の谷戸の半分が開発されて、谷戸の意味がなくなってしまっているため、本当の谷戸を取り戻す提案をしたい。

> 田舎では人がいないので、強制的に参加しなければならないのでコミュニティーはうまれる。

> 一緒にいる時間を増やす。顔を合わせることの積み重ねがコミュニティーをつくる。

> 繋がれている意味を考える。

> 谷戸の良さをきちんと伝える。

■小松・白井

敷地 開成町 ・昔の水路が忘れられている。

- >正しい地図を作り直す。データ、統計を全部貼る。
- >問題意識は何なのか、境界はなんなのか曖昧。
- >用途地域について考えていてはできない。
- >自分たちの考えるマスタープランを提案する。
- >北の風景がどうなればいいのかを考える。

■中畑・半田

敷地 下大槻団地

- ・接地性に今の団地は欠けているので、接地性を持たせるような提案をしたい。
- ・バス停の延長、共有のキッチンを設ける、郵便ポストの集結、住宅の一部を階段化などの提案
- ・前回の背の高い植栽などと合わせて提案をしたい。

- >団地とはなにか。
- >近視眼すぎる。
- >団地の思い込みを持ちすぎている。

□総評

- ・アイデアが浮かばないときはベースに戻る。
- ・好きなところがあれば、なんで好きなのか。好きな理由をもっと伸ばしていけばいい。

□DR

- ・ 次回のゼミ発表
- ・ 自分の好きなもの・興味のあるものについて発表
(今の学会コンペと関係があることでも良いし、全く関係なくても良い)

□次回ゼミ

- ・ 2013年6月6日 13:25～ 山田記念室

日時 | 2013年5月23日 木曜日 14:30~16:50
場所 | 山田記念室
出席 | M2 金子
 M1 山田
 B4 半田(記) 白井 三木 大野 越田 小松 小幡 関口 野川 中畑
遅刻 | M1 板部
欠席 | イ

ゼミ内容

□B4 日本建築学会コンペ 中間発表

□日本建築学会コンペ

> 各グループパネル/模型提出

■三木/大野「江ノ電と共に生きる。」(@神奈川県藤沢市腰越)

分析 | 江ノ電沿線で見つけた境界から周辺住民の江ノ電がある住まい方を分析。

> 藤沢-江ノ島間：小田急線/江ノ電

江ノ電=海外のトラム：人気がある。この差はなにによるか。

なぜ江ノ電は廃線にならないか。

> 自分で絵をつくる。/身体で感じた提案をする。

■小幡/イ(欠席)「(仮)四ツ木の境界」@東京都葛飾区四ツ木

境界 | 四ツ木の街区割りの特徴から境界を発見。

手法 | 銭湯を提案。

> 自分が思う境界が図示されていない。

> 銭湯は実際に利用されるのか。

■山田/野川「谷戸」@神奈川県鎌倉市

問題発見 | 谷戸によってできる独特の領域に着目。

> 谷戸の良さ、谷戸らしさを発見する。

> 行ったことのある人しか分からないことを発見/発表する。

■小松/白井「開成町」@神奈川県足柄上郡開成町

問題発見 | 開成町の街道を発見。

問題意識 | 南北の年代別人口分布の格差。

提案 | 南北に人を循環させる。

手法 | サイクリングロードと周辺に施設/小学校と連携した自然学習施設

>主張が弱い。もっと意見を押し出す表現をする。

■中畑／半田「愛着を持って住まう」@神奈川県秦野市下大槻団地

問題意識 | 日常の住まい方。

境界 | 時代変化における家族形態と住宅供給の境界。

提案 | 日常の住まい方に愛着を持たせる提案。

手法 | バス停の延長／食卓／空中歩道／植生を植える

>もう一度根本に立ち返り、何が本当に提案したいことなのかを整理。

■越田／関口「(仮)取り残された代官山」@東京都渋谷区代官山

代官山の人が集まる場所と集まらない場所の差を地形から分析。

□総評

合格は2班。それでは、展示してください。

□次回ゼミ

提案図面／スケッチ／スタディ模型(1:100)×2、発表。

日時 : 2013年5月16日 木曜日 13:25~20:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田 白井 三木 大野 中畑(記) 越田(記) 小松 イ 小幡 関口 野川
欠席 : なし

ゼミ内容

□ B4 日本建築学会コンペ

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 瀬谷 ・マークスプリングス（新興住宅街）と周辺地域の風景の違和。
・豊かな風景を人工的に作り込んでいることに気味の悪さを感じる。

> ニュータウンでの年齢層に偏りがあるのは何故か。

> 何が問題意識なのか、何が境界なのか。

> ニュータウンの論議は過去に十分してきたので、元々ある話のトレースになってしまう。

> 他人に説明するイメージを作ること。

■小幡・イ

敷地 四ツ木・立石との比較。

・立石は田んぼのグリッドが残っていることがわかる。
・四ツ木は路地的な独特の形状であり、魅力を感じる。

> グリッド、路地的だけでは特徴にならない。

> 何故このような形をとったのかを知ること。

> どこが境界なのか。

> どこで境界が引かれているのかを探してみる。

■山田・野川

敷地 深沢 ・深沢地域の住民は柏尾川の影響を大きく受ける。
・時代に左右されず、川は形を残したまま。

問題意識 ・川と街との距離が遠い。
・工業と住宅の混在。

> 川の表記を地図に記す。

> 川が残っているのは、なくすメリットがないから当然である。

> どこが問題なのか、どこが境界なのか、何故選んだのか。

> 工業と住宅の混在をポジティブな方向へ意識を向けることはできないだろうか。

■小松・白井

敷地 開成町 ・古地図から町の変遷を追うと、住宅街が道状にあったことがわかる。
・土地利用を昔と比較すると、田んぼ以外ほとんど変わらない。
・開成町の中で最も人口が多い地区が北に含まれているが、過疎が進んでいるのも北である。

> 住宅街が道状にあるということは、集落があったのではないか。

> 地図を重ねて変遷を追う。

> 工業化が進むに連れ、道状の集落が分断されていった。

> 人口のデータ等を比較する際は百分率で出すこと。

> 1次的データから2次的データをつくる。

> 人を運ぶプログラムを考える。

■中畑・半田

敷地 下大槻団地

・居住環境と家族形態の関係を探る。
・団地再生コンペ案から過去の案と傾向を知る。
・下大槻団地の抱える問題を役所の方から調査したところ、負の連鎖が続いていることがわかる。
・本からレファレンスを得る。

問題意識 ・時代の変化による「家族形態」に「土地と人の関係性」がついてきていない

> 接地性について深める。

> データを元に提案を複数出す。

■越田・関口

- 敷地 代官山
- ・三田用水は現在使われておらず、碑として残っている。
 - ・コミュニティが希薄している。

- >代官山だけにとらわれず、もっと広い視野を持つこと。
- >地形の差に特徴があるのではないか。
- >自分たちの発見をすること。
- >得たデータから分析をすること。

□総評

- ・ 来週（5月23日）の中間提出に向け、基礎情報とイメージを書くこと。
- ・ リアリティ、歴史、構造、プログラム等、いろんな視点から提案を考えると良い。
- ・ 2人で違った意見をもつことが大切。
- ・ 「常識を疑う」ことをしなければ、境界を超えることはできない。
- ・ 心のこもっていない問題意識が多い。
- ・ 元々議論されている問題は同じもののトレースになってしまうので、自分で問題を発見する。

□ゼミ旅行 連絡事項

.

□次回ゼミ

- ・ 2013年5月23日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年5月9日 木曜日 14:30~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田 白井 三木(記) 大野(記) 越田 小松 イ 小幡 関口 野川
欠席 : なし

ゼミ内容

- B4 日本建築学会コンペ
- 10期 渡邊拓也さんによるレクチャー

日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■山田・野川

敷地 鎌倉 ・鎌倉の観光地と住宅地の二面性から観光客と地域住民との鎌倉に対する感じ方に違いがある。意識的な境界になりうるのではないか。

- > 境界ではなく違い。
- > 駅の反対側の商店街のほうが問題がある。
- > 深沢より大きい鎌倉をやるのは大変。
- > 観光客視点ではなく建築の視点で都市を見る。

■白井・小松

敷地 開成 ・二宮金次郎の作った杉並木の川沿い(東海道の裏街道)に提案をし南北の境界を乗り越える。

提案 ・水路を利用して、子供達の遊び場の提案

- > 東海道の裏街道の道としては方向がおかしい。
- > webなどにある情報は全てが正しいとは限らない。
- > 陸路のみでなく川でモノや人が繋がっていたかもしれない。
- > 問題意識が明確でないのに提案はできない。
- > 公園ができれば必ず人が集まるか。

■半田・中畑

敷地 下大槻団地

問題意識 ・下大槻団地は社会的コミュニティを持つ人が多く、地域的コミュニティのみを持つ人たちに対して、社会的コミュニティの場が多い下大槻にコミュニティの輪を広げる提案

- > 地域コミュニティのみを持つ人で団地が溢れるとは建設当時は考えられていないため、問題としてはよい。
- > 建設当時はサーベイで発見した空地がコミュニティの場であった。
- > 団地の問題に対して本当に必要とされる提案を考え直す。

■三木・大野

敷地 藤沢 ・藤沢市の街の重心が辻堂駅前に移りつつあり、街の構造が不安定になっている。
・旧藤沢駅周辺でも都市開発が繰り返され街の史跡が街に埋もれている。
・見えなくなっている史跡を見えるようにしたい。

- > 「昔の方がよかった」「歴史的な街並みを取り戻す」などというノスタルジ的な提案では通用しない
- > 相変わらず焦点がずれている。
- > 一から考え直す事。

■小幡・イ

敷地 四つ木 ・時間に”境界”を感じた。
・時間の流れに取り残された都市に興味がありサーベイを行った。
・近くにイトーヨーカドーが出来て、シャッター商店街のコミュニティが失われているのではないかと感じた

- > ここでなきゃいけない理由がはっきりしていない。
- > 豊かなコミュニティを求めるならイトーヨーカドーに行けば良い。
- > 生活の延長線上で商店街でも成功している例はいくらでもあるので調べる事。

■越田・関口

- 敷地 代官山
- ・多摩川の水を引っ張ってきた三田用水近くに多くの火薬製造所がある。
 - ・小学校の統廃合に興味を持った。

- >三田用水と代官山は関係ないのではないか。
- >昔との違いが分かる地図を持って来る事。
- >3年生の小学校の課題と問題意識が変わらない。

□総評

- ・昔がよかったと思う人も居れば正反対の考えも人もたくさん居る。その両方を満足させられる提案が必要。そのためにこの課題がある。
- ・資料探しからやっているようではダメで、今回は「常識を疑え」と言う課題なのに常識に従っているのではダメ。
- ・市役所などの資料は裏付けとして使う。
- ・ネットで検索して一番最初に出てくるようなものを発表しても発表にならない。
- ・ネットに流れている情報はあまり信用しない方が良い。
- ・問題意識が明確ではないのに答えをすぐに出そうとしない。
- ・コミュニティは作れない。しかし、コミュニケーションを作るきっかけを建築家などは作る事が出来る。

□10期 渡邊 拓也さんによるレクチャー

- ・渡邊さんの就職までの経験と中国での仕事と生活について。日本では任されないような大きなプロジェクトを働き始め1年で任されるようになり、経験として得るものはとても多かった。日本の建設と異なり、日雇い労働者が作業するため作業ミスが多く、現場ではその指示をする。建設途中で中止になるプロジェクトが頻発する為、未完成・放置建築が多く存在する。中国の悪化する環境問題は、日本も目をつぶってられない現状である。

□次回ゼミ

- ・2013年5月16日 13:25～ 山田記念室

日時 : 2013年5月2日 木曜日 11:05~16:40
場所 : 5実、山田記念室
出席 : M2 金子
 : M1 板部 山田
 : B4 半田 白井 三木 大野 越田 小松 イ 小幡 関口(記) 野川(記)
欠席 : なし

ゼミ内容

□ B4...日本建築学会コンペ.....・ゼミ旅行.....

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 江ノ島電鉄沿い ・人によって危険と感ずる範囲が違う。(パーソナルスペース)
> 鎌倉だからという問題ではない。

・地域と観光客との間に境界があるのでは。
> 何が問題なのかわからない。

> 抽象的な概念だけで場所がしぼられていない。
> できなかったなりに次に何をするのか、何ができなかったのか示す

■野川・山田

敷地 鎌倉市 深沢地域 ・大きな工場と団地があったが今は使われていない。
→開発が予定されているが・・・
・無秩序な配置計画と新しくシンボルとなる跡地の計画で街全体に境界が存在してしまうのではないか。

> 法規的に網掛けすればすむ話では・・・
> 深沢地域は少しでか過ぎるのでは。

■小幡・イ

敷地 新宿区歌舞伎町 ・歌舞伎町に生活感を取り戻せないのか。

> 歴史を調べる。
> 今までの論文を読み返すこともできる。
> 発見するのは君たちだ。自分たちで考える。

■白井・小松

敷地 開成 ・南北問題は人口の差だけで生まれたのか。
→開成町の真ん中に分厚い境界がある。
・公園が多い割には使われていない公園がある。

> 1つの物にまとめる。目に見えるように。
>

■半田・中畑

問題意識 核家族→人と土地・人と人のつながりが弱い

敷地 横浜市青葉区青葉台 ・団地と分譲住宅が交互に建っている。
・青葉台に対する愛着は土地に根付いたものを残す。

敷地 下大槻団地 ・住民の80%は老人

- ・子供はいて昼間は少しにぎやか。

提案→消極的に人と土地をつなぐ建築の提案

- >団地の中では世代交代としていて都市と終わっている所がある。
- >団地は今や負の財産と言われている。
- >下大槻団地はちょうどいい。

■越田・関口

敷地 代官山 ・商業地の住宅地が密接しすぎている。

- >雰囲気（イメージ）だけで決めつけな。
- >絵に自分たちの考えを落とせ。
- >東横線が地下化になったのでその跡地のあたりは面白いかも。
- >みんなが思っていない不思議な場所を見つける。

□総評

- ・物をつくれ。目に見えるように1つにまとめる。
- ・最低限のことを徹底的にやれ。
- ・ネタをしいれる。
- ・院生がフォローしてください。
- ・進学も就職もうまくいった人は、勉強もゼミもどちらも一生懸命やった人が報われる。
- ・闇雲にサーベイに行かない。狙いをたてて、予測をしてサーベイする。
- ・模型をつくるでもよい。
- ・古地図も見る。

□ゼミ旅行

- ・お昼ご飯は県立大でとる。
- ・益子につくのが遅い。県立大の時間を短縮。
- ・大縄跳びは楽しかった。鬼ごっこは楽しそうだったが疲れていた。
- ・キンピールに工場見学に決定。
- ・費用は18000円くらい集金。

□次回ゼミ

- ・2013年5月9日 13:05～ 山田記念室

日時 : 2013年4月18日 木曜日 14:30~21:00
場所 : 5実、山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田 白井 三木 大野 越田 小松 イ(記) 小幡(記) 関口 野川
欠席 : なし

ゼミ内容

□ B4 日本建築学会コンペ

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

■三木・大野

敷地 本厚木 ・駐車場の足りない。駐車場が境界になりうるのではないかと。

> お金お次ぎ込むことだけで解決するものではない。本厚木は建物が入っているが、中に会社が入っておらず、歯抜け状態になっている。

敷地 藤沢 ・昔は宿場町だった。道が狭くなるのが問題。

> なぜ宿場町になったのか。

> 藤沢は無計画で変なところである。

> 藤沢～江の電の部分は面白い。

■小幡・イ

敷地 新大久保 ・文化の違いが境界になりうるのではないかと。そのためにデモなどが起こっている。

> 新大久保は日本有数のエスニックタウンであるが、日本人が外人を受け入れることをしないのでデモなどが起きてしまう。

> それを建築的に解決することは難しいし、東上野などには韓国人がひっそりと暮らしている。

> 目に見えすぎているので、鶴見なども参考にする。

■白井・小松

敷地 谷中 ・塀がお寺と街との境界を作っている。

> 本来お寺には塀がなかった。敷地が狭いのでお寺に管理させるようになり、管理上の問題で塀を作った。

敷地 開成 ・ガソリンスタンドがないと人口は減る傾向にあるが、開成は近くに工場ができたり、電車での交通範囲が広がったことから現在はニュータウンとなっている。
・そこには人口の差ができそれが境界ではないかと。

> 開成は目の付け所がよい。

> 鶴巻なども今はニュータウン化してきている。昔は農村だったところにサラリーマンが入るので境界ができる。

■半田・中畑

問題意識 ニート ・問題ニートが増えているのは選択肢が多く決めかねるや決めたくないなどが理由ではないかと。

> ニートの問題は親が悪い。親が保護をしてしまうから働かなくても生きていけるとしてしまう。

> 建築にしにくい。

問題意識 外国人労働者 ・栃木は工場が多く外人が多い。
・日本人がしたがる仕事を外国人にさせる。
・お互いの文化をわかり合おうとするようにサポートさせる。
・敷地は鶴見を想定している。

> 日本は基本的に単一民族国家なので外人は受け付けない。

> 外人だからと理由で差別するのは間違っている。

> コミュニケーションがとれるようなコミュニティセンターをつくる。

問題意識 核家族 ・都内に出る人が多く、核家族になっている。
・核家族が増えたことにより孤独死などがはやってしまった。

> 都心の60パーセントは一人暮らし。

>核家族は社会問題ではなく、もうなっている。

■越田・関口・野川

- 敷地 渋谷 ・渋谷駅の近くは神社があり境界があると思った。
・ 神社は距離がおきたくなるような場所だがそれを親しみ深くしたい。
・ 日本は公園が少なく、特に渋谷は緑がない。

>塀はいるのか。
>安全のために塀があるのか。

- 敷地 鎌倉（野川） ・寺の前に踏切がありとても不自然で、そこに境界があると思った。
・ 雰囲気が急にかわったことに違和感を感じた。

>線路のわきを歩いている間隔と寺にはいったときの雰囲気は何が違うのか。
>門があれば雰囲気がかわるのか。

- 敷地 鎌倉（越田） ・鎌倉の道路の幅は少し狭くなっている。
・ 敵から攻められないように道が狭くなっているのではないか。
・ 路地に入ったとき静けさを感じてそれが境界だと思った。

>車が入れない道であればどこでも良いのではないか。
>騒音の問題は交通量の問題なのか。

□総評

- ・ パワーポイントの作り方を考える。
- ・ 歴史を調べていない。歴史を知らなければ何も始まらない。
- ・ みんなただ行っているだけ。いった後に調べる。
- ・ 概念図を書く。
- ・ wikipediaは文字しか書いてないのでその証拠が必要。
- ・ 議論になるものを作る。
- ・ すぐ結論を出すのはよくない。
- ・ 不思議な場所はネットで出てくるが、みんなやっている場所が多い。
- ・ 代官山ヒルサイドテラスは奥に入っていづらいうように計画されている。
- ・ 図にマジックに書くだけでも良い。
- ・ 進学も就職もうまくいった人は、勉強もゼミもどちらも一生懸命やった人が報われる。

□次回ゼミ

- ・ 2013年5月2日 11:05～ 山田記念室

日時 : 2013年4月18日 木曜日 14:30~21:00
場所 : 5 実、山田記念室
出席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 半田(記) 白井(記) 三木 大野 越田 小松 イ 小幡 関口 野川
欠席 : B4 中畑

ゼミ内容

□ B4 日本建築学会コンペ ゼミ旅行

□日本建築学会コンペ

> 各グループPPで発表。

三木・大野

2011年 首都大学東京 「街の残景と暮らしの断片」

2011年 九州大学大学院 「記憶の回廊-変わる街並み 変わらない領域-」

2005年 立命館大学大学院 「京都彩色」

2009年 神戸大学大学院 「雨のち晴れ」

半田・白井・イ

2007年最優秀賞 北九州大学大学院 「学校のマイタウン」

2008年最優秀賞 大分大学大学院 「ゆっくり刻む大学」

2009年最優秀賞 前橋工科大学大学院 「EDIT CITY」

2011年最優秀賞 北九州大学大学院 「芝居がつなく 人とまち」

中畑・小松・小幡

2007年度優秀賞 日本大学 「人の心に残る町の風景 町の風景に残る人の心」

2008年度優秀賞 山口大学大学院 「創失のすがた-一失うことを失わないために-」

越田・関口・野川

大阪工業大学大学院 「保存の解体」

慶応義塾大学大学院 「Invisible Gardens-隠田の水系の名残に呼応する 原宿 Institute of WA -」

神戸大学大学院 「墓と生きる」

- ・ 問題意識をきちんと定義すること。だから説明しない。
- ・ 見えないことが問題なのか。
- ・ boundaryはborderよりあいまいな表現。
- ・ 国境はboundaryが多い
- ・ 地方のほうがなんで面白い建築があるのか。田舎のほうが、バックグラウンドがありやすい。
- ・ 都会は条件がありすぎる。したがって、東京は難しい。
- ・ Defense面だけでなく環境面も考える。
- ・ ディフェンス(構造/環境/経済面)を考慮しリアリティのある提案にする
- ・ 建築をする=環境にとって無駄、田舎には建築が無い方がいいという意見があるが、建築をする=文明を前に進める/人が動く/お金が回る→文化財は冷凍保存すると街が廃れるので手を加えなきゃいけない。
- ・ 建築は足で稼げ。いろいろな建築/都市を見に行け。
- ・ 問題意識と提案をきちんと決めればゴールは分かる。
- ・ グーグルマップ、グーグルアースで面白い街を見てみる。フリーパスを買って行くほうが楽しめる。

□ゼミ旅行

- ・ 人数は22人で決定
- ・ 授業を休むかどうかは判断し、事前に連絡。建築学科の授業には迷惑かけないように。
- ・ 途中合流なら、どこで拾ってもらおうかよく考える。益子までなら新宿からバスで3時間かかる。

□次回ゼミ

- ・ 2013年4月25日 13:25~ 山田記念室

吉松研究室 第2回議事録

日時 : 2013年4月11日 木曜日 14:00~15:40
場所 : 5実、山田記念室
出席 : B4 小松(記) 中畑 三木 大野 半田 白井 イ 小幡 関口 野川
欠席 : M2 金子
: M1 板部 山田
: B4 越田

ゼミ内容

B4 進路について (前回欠席者確認) 日本建築学会コンペ説明 DR ゼミ旅行

進路について

■進学組

・小松: 東海大 (吉松研)

■就職組

・野川: 住宅メーカー

■進学

> 大学入学前と今では考えが変わるのは当たり前。自分の考えに引きずられない。大学は大学、大学院は大学院。就職しないで大学院にいったのはなぜ? なぜこの大学院を選んだのか? を答えられるように自分の意見を持つ。進学する人は1年半後も建築をやりたいと思えば良い。どれだけ自分を伸ばせるか。アルバイトでも漫然と働かないで意識を持って働く。将来のために自己投資をすること。

■就職

> 経済に左右されるのではなく自分の哲学に合うところに行くべき。イメージだけで人生を捨てない。学力社会ではなくなった。大学の名前より個人。会社説明会は会社のイメージが良いように説明し騙すもの。毎年たくさん雇用するところは危ない。急成長企業は気をつける。これから伸びそうな企業が良い。自己投資を続けた人が買ってもらえる。吉松先生の場合、磯崎アトリエで働く→他にはない大きな仕事ができる→給料を低くても経験は高く売れる→将来の自己投資に繋がる。経歴はデザインである。

日本建築学会コンペ

> 6/28締め切り。
問題発見能力を身につける。自分で敷地を設定し課題文を作りサーベイする。
常識を疑う事。常識を手に入れるためには勉強する(歴史を知る)。歴史を知る事で自分の考えが古いか新しいか知れる。なにか境界(border、boundary)を見つける、boundaryの意味が概念的に面白い。
boundary【名詞】1 境界(線)、2 限界、限度、3 [クリケット] 境界線打(による得点)
新しいという言葉を使うな。他人が決める事である。今までと違う事を示す。どうやって問題を乗り越えようとするか。

DR (デザイン研究)

> 他にこういう活動している学校や研究室がないから就活、進学するときにすごく受けがいい。しかしここ数年あまりうまくいかない。うまくいかない理由は外にでかけなくなってしまったため。もっと自分の足を使って歩き回ること。すごく考えられているもの知る。なにかを知るにはその分野のトップにいけ。

ゼミ旅行

- ・3年生などを誘い人数を増やし費用を安くすること。
- ・フォレスト益子は部屋を減らせばもう少し安くなる。
- ・分刻みで予定を組むのではなく十分単位で組む。

次回ゼミ

・2013年4月18日 13:25~ 山田記念室

吉松研究室 第1回議事録

日時 : 2013年4月5日 金曜日 17:00~20:30
場所 : 山田記念室
出席 : M2 金子
 : M1 板部 山田
 : B4 三木(記) 大野(記) 越田 中畑 半田 白井 イ 小幡 関口
欠席 : 小松 野川

ゼミ内容

- 今年度の研究室の体制について
 - B4 進路について
 - B4 ゼミ旅行
-

進路について

■進学組

- ・三木: 京都工芸繊維大 (長坂研、米田研)
- ・大野: 理科大 (伊藤研)
- ・白井: 千葉大 (岡部研)

■就職組

- ・越田: 設計施工メーカー、大工の学校
 - ・中畑: 内装デザイン
 - ・イ : アトリエ (限事務所)
 - ・関口: 住宅メーカー
 - ・野川: 住宅メーカー
 - ・金子: 組織設計 (類)
-

■進学組

> 建築の設計がしたいなら設計の出来る場所へ行く。志望順序を考える。大学院で本格的な実務は出来ない。(学生な責任がとれない為)実務がしたいなら就職したほうがいい。院試は設計では差がつかない、学科の差が大きくなるのでとにかく勉強すること。勉強をすればどれだけ勉強が出来ないかが分かる。大学院は周りの環境で選ぶ。

■就職組

> メーカーは”ものを作る”が仕事、設計事務所は”設計をすること”が仕事。同じような仕事だけどやっていることは全然違う。哲学が違う。苦勞しても何か違う対価を得られる仕事を選ぶ方がいいのではないか。イメージで就職先を決めるのはよくない。エントリーシートを書く前に会社の情報を調べる。中途半端な判断をするくらいなら自分を磨いてからもう1度売るのがよい。

今年度の研究室の体制について

■ゼミ旅行について

- ・OBOG、2-4年生にも声をかけ人数を集める。(あと10人くらい)
- ・日程は5/17(金)~18(土)
- ・ルートをもう一度よく考え直す事。

■ゼミについて

- ・院ゼミ 毎週月曜、B4ゼミ 毎週木曜の予定(後期は水曜の予定)
 - ・木曜日 ゼミ3、4限 先生は5限が入門ゼミなので、時間が足りない場合は6限も。
-

■決定事項

- ・会計・書類: B4中畑、白井
 - ・鍵管理: B4三木、イ
 - ・ネットワーク: B4半田、小幡
-

■連絡事項

- ・事務室にあるコピーカードで、事務室と山田記念室のコピー機を使用できる(ゼミに関係する資料のみ使用すること)。
 - ・基本的に第2研究室は自由に使用可能。但し、私物化しないこと。第4研究室は先生の部屋だが自由に使用可能。但し、使用後は掃除をすること。
 - ・ポर्टフォリオは学校とは関係ないものなので使用する紙などは自分で購入すること。
 - ・盗難事件がたまにあるので私物は自己管理し、研究室を使用しない場合は鍵を閉めること。研究室が開いていない場合は16号館の守衛室で鍵を借りること。
-

次回ゼミ

- ・2013年4月11日 13:25~ 山田記念室
-